

介護の職業イメージに関する社会学的考察と 介護福祉教育の役割

益川 順子*・倉田 郁也**・前島 克美***・川廷 宗之****

本研究では、対人援助職として特別養護老人ホーム、老人保健施設及びグループホームに勤務する介護職と介護福祉士養成課程に在籍する学生に「介護」「介護職」についての印象形成について調査した。方法は、現職の介護職に対しては「介護」「介護職」のイメージについて、学生に対しては、「介護」「介護職」のイメージ及び「介護職への志望動機」に関する自記式質問紙調査を実施した。自由記述については、記述の類似した意味内容素を探し、研究者間で合意したものを概念化した。結果は、介護職及び学生共に「処遇・待遇」「職務感」「身体的・心理的」な実務的な介護・介護職のイメージはネガティブな印象が示唆され、情緒的なイメージはポジティブな印象が示唆された。又、学生は、「職務感」「自己実現」「心理的・社会的側面」において肯定的なポジティブイメージと、介護職への期待感が示唆された。又、介護職を目指す動機付けの契機として、身近な家族や親族の介護体験やその経験や人間関係を通じた役割意識と愛他性、社会貢献への責務感の芽生え感情が示唆された。介護や介護職への興味関心を育むには、日常生活における老いや病の実体験を通じた介護経験や中庸な人間の発達と老化の理解が不可欠である。本研究の結果から、介護に対する主体的当事者意識と介護の多様な印象形成を育て、介護福祉への関心を高める解題に向けた教育の工夫が必要であると考えられる。

Key Words：対人援助職、介護のイメージ、長期就労継続要因、介護福祉教育

I. 緒言

第4回社会保障審議会福祉部会・福祉人材確保専門委員会(2015)の調査では、今後「介護ニーズの高度化・多様化に対応しうる介護人材の質的向上を図る必要がある」、「介護人材を、量・質ともに安定的に確保するための道筋を示すことは喫緊の課題である」と指摘されている。ところが、介護労働安定センター介護労働実態調査(特別調

査)(2014)の調査によると、「介護サービスを担う専門性の高い介護人材の確保と職場への定着」に問題を抱える介護事業主は多く、また、介護職者側も、「人手が足りない」「仕事内容のわりに賃金が低い」「有給休暇が取りにくい」など、労働条件に関する悩み等を抱えている。

一方で、介護職人材の志望者減を反映する背景として、毎日新聞(2015)によると、介護福祉士を育てる大学・短大や専門学校などの全国の介護福祉士養成校の数がピークだった「2008年度の

* 人間学部

** 東京家政学院大学

*** 社会福祉法人伸こう福祉会

**** 職業教育研究開発センター

507 課程(434 校)から、2013 年度の 412 課程(378 校)へと、わずか 5 年で約 2 割減少し、2013 年度の定員充足率は、「1 万 8861 人減少し 69.4%」であった。

以上のことから、介護需要の高まりで現場の人手不足が続く一方で、学生はその要因の一つとして、給与水準の低さや過酷な労働実態等の「介護のネガティブな社会的イメージ」のみを認知し、入学希望者が減少し介護職を敬遠している。同時に介護人材の不足は深刻であり、厚生労働省(2015)によると「介護福祉士の登録者は、2014 年 9 月末で約 129 万人であるが、実際に介護職に就いているのは 55%程度であり、団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年には約 248 万人の介護職が必要とされ、現状のままでは約 30 万人の人手不足に陥る」と推計する。

介護神奈川県社会福祉協議会(2011)「平成 21 年度介護業界及び介護職に対する若者のイメージ調査報告書(介護と介護就労へのイメージ)」によると、若者たちの介護職に就くことへの希望調査において「友人が介護に就きたいと言ったら(否定 14%)、親が介護の仕事に魅力を感じているか(否定 52%)、両親は介護の仕事を進めるか(否定 69%)、就職先として魅力があるか(否定 68%)、介護の仕事に就きたいか(否定 77%)」とネガティブな感情を抱いている。又、若者たちは介護業界にどのようなイメージを持っているかについては、「人が足りない(95%)、難しい仕事(91%)、地味(87%)、資格が必要(86%)、重い仕事(85%)、報われない(83%)、厳しい(81%)、汚い(63%)、暗い(54%)」と、いずれも介護職に対する強いネガティブなイメージを持っている。

実際、将来の職業選択として進路の岐路の立つ年齢を迎え、介護職の担い手としても期待される現代の若者(18 歳～22 歳)は、非介護職でもあり、経験値のない若者がなぜ介護職にネガティブなイメージを抱くのか。この問いに関連して、一部の先行研究、介護神奈川県社会福祉協議会(2011)「平成 21 年度介護業界及び介護職に対する若者のイメージ調査」報告書(介護と介護就労へのイメージ)では、「介護に関わる言葉イメージとして「介

護」「老人ホーム」「お年寄り」の 3 つを選択し、それぞれのイメージに対して、介護(49%)、老人ホーム(47%)、お年寄り(24%)」と否定的な概念とそのイメージが抽出されると共に、「介護の仕事を知らない(48%)、関心もなく(56%)、勉強したいとも思わない(42%)」と介護そのものに対するネガティブなイメージを抱く以前に興味関心がないことが明らかになった。又、どのような情報から介護に関するイメージを定めているかについて「身の回りに介護従事者(31%)や介護を受けている人がいる(35%)割合は少なく、周辺にいない者(61%)であり、介護の仕事についての情報源は、本・映画・テレビなどのメディア情報が 3 分の 2 を占め最上位であり、先生や親による会話が 4 人に 1 人」ということが明らかになった。介護への進学意志がありながら、先生や親に反対をされ進路変更をしたという現象はできる限り回避する必要があるであろう。一方で、介護職を目指す学生の中には、中学校の職業体験(介護や保育)やボランティア体験や身近な家族の介護体験等によって、介護への興味関心や多様な内発的動機及び外発的動機(家族からの勧め)と共に、進路を選択される契機となっている。

そこで、以下に介護及び介護職のイメージ形成構築過程の仮説をたてた(図 1)。ここでいう若者が抱くイメージや興味関心への動機付けの前提条件としては、多様な環境要因(生活歴、人間関係、教育、情報)によって価値観の印象形成が構築されると考えた。

本研究では、対人援助職として現職で実際に介護に携わる職員の「介護・介護職のイメージ」と、介護福祉士養成校の学生の「介護・介護職のイメージ」の実態を明らかにすることを目的とし、「介護」のどのような一面に「やりがい」や主観的な肯定的印象を感じるのかを知ることで、今後の介護職の離職防止及び安定的就労の実現や、介護を志そうとする人々への情報資料の一つに寄与すると共に、教育の役割を考える。

II. 調査方法

1. 調査対象

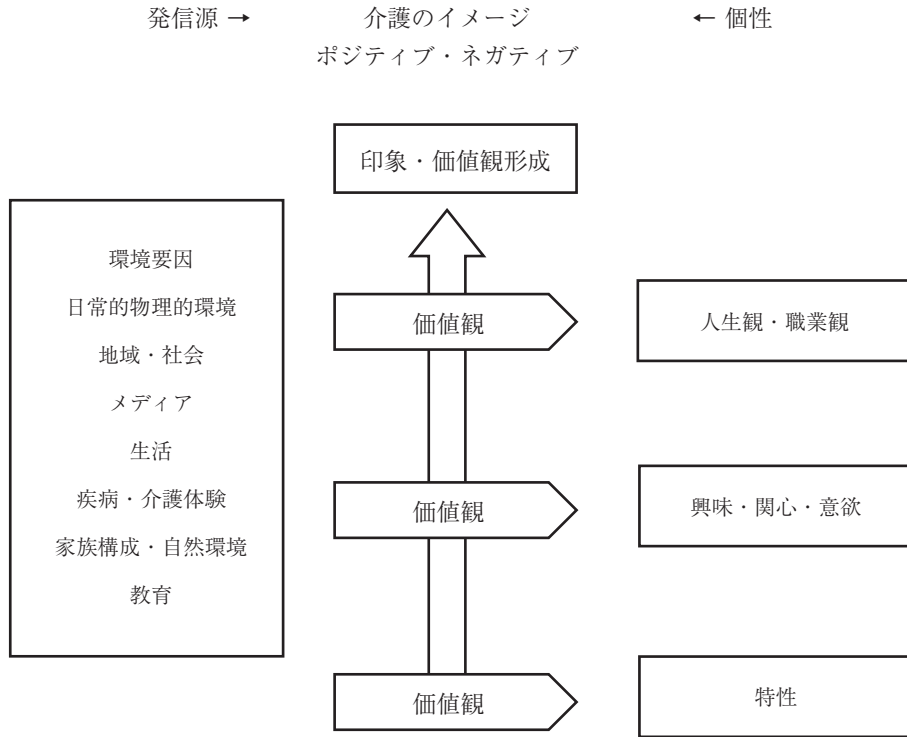


図1 介護及び介護職のイメージ形成構築過程の仮説 (益川 2016)

- 1) K 県の特別養護老人ホーム介護職員男女 100 人及び、S 県老人保健施設グループホーム介護職員男女 88 人の計 188 人（117 人回収有効回答率 62.23%：平均年齢 40.86 歳（SD ± 14.15））
- 2) A 県の介護福祉士養成校の学生 1 年生 2 年生の男女計 25 人（25 名回収有効回答率 100%）を対象とした。

2. 調査方法・調査期間

- 1) 介護職員対象調査：上記 2 施設に配布し自記式質問調査を実施し、5 日後に回収した。調査期間は、2014 年 12 月 15 日～同年 26 日である。
- 2) 介護福祉士養成校の学生対象調査：2015 年 4 月及び 2016 年 4 月（入学後初回講義前に実施）

3. 調査項目

- 1) 介護職員対象調査：属性（最終学歴，基礎資格，経験年数，転職回数），雇用形態，介護職，介護のイメージ等である。

- 2) 介護福祉士養成校の学生対象調査：介護・介護職のイメージについて。

4. 分析方法

自由記述の内容分析を行った。内容分析は、記述の類似した意味内容素を探し、研究者間で合意したものを概念化した。

5. 倫理的配慮

対象者に本研究の趣旨を説明し、調査の参加は任意であり個人情報を守られること、収集された内容は研究目的のみに使用することを伝えて同意を得た。尚、提出を同意の意思とみなした。日本介護福祉介護学会研究倫理指針に基づいて行った。

Ⅲ. 結果

1. 調査対象者の属性（表 1）

K 県の特別養護老人ホーム介護職員男女 100

人及び、S 県老人保健施設グループホーム介護職員男女 88 人の計 188 人 (117 人回収有効回答率 62.23% : 平均年齢 40.86 歳 (SD ± 14.15)) より回答を得た。最終学歴、基礎資格、経験年数、転職回数についての基本属性について表 1 に示した。

表 1 介護職の属性 (人) (%)

最終学歴	社会福祉系の大学	3	2.6%
	その他の大学	18	15.4%
	その他の短大	4	3.4%
	介護系専門学校	9	7.7%
	その他の専門学校	16	13.7%
	高校	46	39.3%
	中学	7	6.0%
	初任者研修	3	2.6%
	実務者研修	2	1.7%
	その他	4	3.4%
	未回答	5	4.3%
	基礎資格	介護福祉士	39
社会福祉士		1	0.9%
ホームヘルパー		37	31.6%
栄養士		5	4.3%
資格なし		25	21.4%
ケアマネージャー		2	1.7%
その他		3	2.6%
未回答		5	4.3%
経験年数		1 年未満	15
	1 年以上 3 年未満	23	19.7%
	3 年以上 5 年未満	16	13.7%
	5 年以上 7 年未満	17	14.5%
	7 年以上 9 年未満	9	7.7%
	9 年以上	27	23.0%
	未回答	10	8.5%
転職回数	なし	42	35.9%
	1 回	22	18.8%
	2 ~ 3 回	22	18.8%
	4 ~ 5 回	14	12.0%
	5 ~ 6 回	5	4.3%
	6 回以上	2	1.7%
	未回答	10	8.5%

n = 117

2. 介護職の雇用形態

介護職の雇用形態及び 1 日あたりの勤務時間について、表 2 に示した。雇用形態は、常勤 63 人 (53.8%) が最も多く、ついで非常勤 29 人 (24.8%) であった。特定の生活支援業務のみ、夜勤専従での雇用形態も見られた。

表 2 介護職の雇用形態 (人) (%)

雇用形態	常勤	63	53.8%
	非常勤	29	24.8%
	生活支援	5	4.3%
	夜勤専従	8	6.8%
	派遣	4	3.4%
	その他	1	0.9%
	未回答	7	6.0%
1 日あたりの勤務時間	3 時間	2	1.7%
	4 時間	4	3.4%
	5 時間	3	2.6%
	6 時間	1	0.9%
	7 時間	3	2.6%
	8 時間	77	65.8%
	9 時間	5	4.3%
10 時間	12 時間	7	6.0%
	14 時間	4	3.4%
	未回答	11	9.4%

n = 117

3. 介護職の「介護職」「介護」イメージについての自由記述の結果

1) 介護職の「介護」「介護職」の実務的イメージ (表 3)

- (1) ネガティブな処遇・待遇 (67) → 低賃金 (38), 人員不足 (10) 等
- (2) ネガティブな職務感 (101) → きつい (54), 汚い (20), 重労働 (13) 等
- (3) ネガティブな身体症状 (21) → 腰痛 (10), 疲労 (8) 等
- (4) ポジティブな処遇・待遇 (2) → 長く勤められる, 休みが多い
- (5) ポジティブな職務感 (9) → 助ける, 奉仕

表3 介護職の「介護」「介護職」の実務的イメージ

大カテゴリー	小カテゴリー	(人)50/88	(人)67/100	
		施設1	施設2	
処遇・待遇	低賃金	14	24	
	人員不足	5	5	
	不規則	3	7	
	定時で帰宅できない	3	0	
	職員が定着しない	1	2	
	不平等	1		
	長く勤められる	1		positive
	設備不備		2	
	休みが多い		1	positive
	職務感	きつい・忙しい・大変	21	33
汚い		8	12	
重労働・体力勝負		6	7	
助ける		3	0	positive
臭い・排泄		3	8	
奉仕		2	4	positive
3K		1	1	
社会的地位・ルールが曖昧		0	3	
だれでもできる仕事・お手伝い		0	3	
現場任せ		0	1	
身体的・心理的側面	腰痛	5	5	
	忍耐	2	0	
	疲労(心身)	1	7	
	不眠	1	0	

表4 介護職の「介護」「介護職」の情緒的イメージ

大カテゴリー	小カテゴリー	(人)50/88	(人)67/100
		施設1	施設2
主観的な肯定感情 positive	楽しい	5	6
	笑顔	5	4
	喜び・嬉しい	2	1
	きれいな	1	
	明るい	1	
	癒し	1	
	ユーモア	1	
	元気	1	
	充実	1	
	情熱		1
主観的な否定感情 negative	自由		1
	感動		1
	不安	1	
	迷い・葛藤	1	1
	恐怖	1	
	自己満足		1
	孤独・寂しさ		2
	忍耐		1
	拒絶		1
	暗い		1
対人援助感情	思いやり・優しさ	15	10
ホスピタリティマインド	親切・おもてなし・気持よく・丁寧	4	4
	傾聴	3	1
	受容	3	
	信頼	3	3
	気付き・発見	2	
	共感/理解	2	2
	尊重	2	3
	自尊心		1
	寄り添う	1	1
	向き合う	1	
自己有用感	尊敬	1	
	安心	1	1
	やりがい・充実感	6	11
	感謝・ありがとう	4	3
	役に立つ	1	

2) 介護職の「介護」「介護職」の情緒的イメージ(表4)

- (1) ポジティブ感情 (31) → 楽しい, 笑顔など
- (2) ネガティブ感情 (10) → 不安, 自己満足など
- (3) 対人援助感情 (25) → 思いやり, やさしさ
- (4) ホスピタリティ (39) → 親切, 信頼, 尊重など
- (5) 自己有用感 (14) → やりがい, 充実感など

3) 介護職の「介護」「介護職」の主観的困難感(表5)

- (1) ネガティブな処遇・待遇 (71) → 人材不足 (32), 収入 (16), 不規則 (9)
- (2) ネガティブな教育・キャリア形成 (20) → 教育・勉強・知識不足・スキル
- (3) 身体的負担 (38) → 腰痛・肩こり・体力不足・眠気
- (4) 実務的負担 (22) → トイレ介助・入浴介助など
- (5) 精神面 (13) → 孤独・落ち込み・不安・ストレス・やりがい・楽しさなど

4. 介護学生の「介護」「介護職」のイメージについての自由記述の結果

1) 介護学生の「介護」「介護職」のイメージ・ネガティブ (表6)

- (1) 処遇待遇(35)→不規則(15), 人員不足(10), 低賃金 (4), 夜勤 (4人), 離職 (2)
- (2) 職務感 (64) → きつい・大変・忙しい・辛い・苦勞 (40), 重労働・忍耐 (15), 等
- (3) 身体的・心理的側面 (9) → 心身の疲労 (4), ストレス (2), 腰痛 (1), 睡眠不足 (1), 悩み (1)

2) 介護学生の「介護」「介護職」のイメージ・ポジティブ (表7)

- (1) 職務感(51)→コミュニケーション能力(16), 面白み・楽しそう (14), 直接的な対人援助・

表5 介護職の「介護」「介護職」の主観的困難感

大カテゴリー	小カテゴリー	人 50/88 施設 1	小カテゴリー	人 67/100 施設 2
処遇・待遇	人材不足	13		19
	収入	9		7
	不規則	6		3
	異動が早い			4
	離職	1		3
	定評価	2		
	契約と違う	2		
	保証がない			1
	勤務地が遠い	1		
教育 キャリア形成	教育・勉強・知識不足	6		14
	技術力の違い・アイデア不足			
身体的負担感	腰痛・肩こり・体力不足・眠気	17	腰痛・肩こり・体力不足・眠気	21
実務的負担感	身体介護 (トイレ・入浴・移乗・食事)	5		12
	負の連鎖・流れ作業・秘密保持	2		
	与薬・見守り不安			2
	業務の不統一	1		
精神的負担感	イライラ	2		3
	我慢	1		
	不安	1		
	孤独	1		
	ストレス	1		
	落ち込み	1		
	やりがいがない			1
	マイナス思考			1
	楽しめない			1

表6 介護学生の「介護」「介護職」のイメージ(ネガティブ)

大カテゴリー	小カテゴリー	(人) 25/25
処遇・待遇	不規則・終日・年中無休	15
	人員不足	10
	低賃金	4
	夜勤	4
	離職	2
	職務感	きつい・忙しい・大変・辛い・苦勞
職務感	重労働・忍耐	15
	汚い	2
	暗い	1
	閉鎖的	1
	孤独	1
	人間関係(利用者・家族とのトラブル)	1
	人間関係(職員とのトラブル)	1
	社会的地位が低い・評価が低い	1
	勉強が大変	1
	身体的・心理的側面	疲労(心身)
ストレス		2
腰痛		1
睡眠不足		1
悩み		1

- 関わりたい(10), 責任(8), 面倒見が良い(2),
リーダーシップ(1)
- (2) 自己実現(43) → 知識(14), 成長(10),
国家資格(8), 技術力(8), 可能性へのチャ
レンジ(2), 人間力(1)
- (3) 心理的側面(59) → 利用者からの笑顔(21),
笑顔(12), 感謝(7), 信頼(4), 喜び(4),
優しさ・思いやり(4), 感受性・繊細さ(3),
頼りになる(2), 安心(1), 元気(1)
- (4) 社会的側面(31) → 必要性・社会的意義・
社会貢献(20), 自立支援(8), 未来の自分(1),
看取り・死と向き合う(1), 先見性(1)

5. 介護学生の「介護職」への志望動機の動向(表8)

- (1) 介護学生の介護体験の有無(回答者25人)
身近な家族や親族に対する介護体験につい
て, 経験者が16人であった。
又, 中学校の介護職職場体験の経験者は1人
であった。

表7 介護学生の「介護」「介護職」のイメージ(ポジティブ)

大カテゴリー	小カテゴリー	(人) 25/25
職務感	コミュニケーション能力	16
	面白み・楽しそう	14
	直接的な対人援助・関わりたい	10
	責任	8
	面倒見が良い	2
	リーダーシップ	1
自己実現	知識	14
	成長	10
	国家資格	8
	技術力	8
	可能性へのチャレンジ	2
	人間力	1
心理的側面	利用者からの笑顔	21
	やりがい	12
	感謝	7
	信頼	4
	喜び	4
	優しさ・思いやり	4
	感受性・繊細	3
	頼りになる	2
	安心	1
	元気	1
社会的側面	必要性・社会的意義・社会貢献	20
	自立支援	8
	未来の自分	1
	看取り・死と向き合う	1
	先見性	1

- (2) 介護職の志望動機については, 全員が国家
資格取得の意志を強く持ち「家族や親族の介
護経験」によって興味関心を抱ききっかけと
なった学生が16人, 誰(他者)かの役に立
ちたいと回答した学生が17人であった。

IV. 考察

1. 介護職が抱く「介護」に対する“やりがい” と“現実”

1) 介護職の介護への「実務的イメージ」につ いて

現実的な問題として〈低賃金・人員不足・きつ
い・忙しい・大変〉等の処遇や待遇面に関する否

表 8 介護学生の「介護職」への志望動機の動向

No	介護経験の有無	介護職の志望動機
1	○	両親の介護をして大変喜ばれた、優しさを伝えていきたい
2		人の役に立ちたい・支えたい
3	○	国家資格を取りたい、自身の病気の経験を活かしたい
4		祖父の介護ができなかったので、資格をとって家族や皆を支えたい
5		一人暮らしの祖父同じような状況の人の支えになりたい
6	○	祖父と同居中、将来的に介護が必要に、勉強したいと思った
7	○	施設の見学と祖母のサポートをしたときに興味を持った
8	○	親族が看護師で職場を見ていた、ひいばあちゃんの介護をする姿を見て
9		介護職業体験と見学
10	○	家族のけがをきっかけに、誰かの役に立ちたいと思った
11	○	家族の介護と死の体験、介護の仕方がわからずに心残りがあ
12	○	祖父母の手伝いをしたいとおもった、母が働く施設での手伝い
13	○	人の役に立ちたい、高齢者を笑顔にしたい
14		学士をとりたい
15		国家資格を取得したい
16		国家資格の取得と人に関わるのが好きだから
17	○	沢山の技術を持ち、人の役に立ちたい
18	○	高齢者が楽しめるような生活を支えたい
19		利用者さんと関わり役に立ちたい
20	○	福祉高校の教師になりたい
21	○	やりがいのある仕事だから、手に職をつけたい
22	○	資格を取得したい、人に喜んでもらいたい
23	○	やりがいがある、必要とされている、喜んでもらいたいから
24	○	人と関わるのが好き、資格を取りたい、役に立ちたい
25		知識と技術を身につけ資格を取りたい

定感情が挙げられ、職務感においては、〈きつい・忙しい・大変・汚い・重労働・臭い〉等の否定的感情が多く挙げられた。一方で、介護への「情緒的イメージ」は〈楽しい・笑顔・喜び・嬉しい〉といった、主観的肯定感情が挙げられた。又、〈思いやり・優しさ・親切・おもてなし・傾聴・受容・信頼・気づき・発見・共感・尊重〉等の対人援助感情として、肯定的な主観的印象を持ち、ホスピタリティマインドとしての肯定的感情が示唆された。

現実的な介護職務には負担感を感じながらも、介護職及び介護に「楽しみ」を見つける仕事を楽しむ主体性が関係しているのではないだろうか。又、介護の対象である他者との関係性の中で、自分にできることを広げ、他者から必要とされる存在として自分を近づけ、位置づけて、そして“やりがい”を自らが探求し発見し感じることができ

るのではないだろうか。又、やりがいの本質の背景として組織の利益や他者への愛他性（宮里，高橋，森川 2016）が前提となり、結果的に他者意識が、社会貢献への印象を強く与えたと考えられる。

2) 介護学生の「介護」「介護職」のイメージについて

「介護」は形式や形態が異なるにせよ、いずれ生きている限り遠からず誰もが通る道である。そして、「介護」は社会でクローズアップされるような物理的な負荷や負担等の困難や苦労や処遇面の悪さばかりではない。人間を対象にしているが故に、一人一人のライフデザインに応じ、生命の尊厳に寄り添い、多様性と創造性に満ちた経験としてやりがいも多い。しかし、近年の家族形態の変遷からも明らかな様に、神奈川県社会福祉協議

会（2011）介護業界及び介護職に対する若者のイメージ調査報告書（介護と介護就労へのイメージ）調査によると、「三世帯世帯はおよそ20年で半減し、核家族（「夫婦のみ」「夫婦＋未婚の子供」「父親か母親のどちらか一方＋未婚の子供」）世帯の漸増を続けている。」つまり、祖父母を中心とした高齢者の存在が、次世代に続く若者にとっても、日常生活において身近な存在から距離感が生じ、「介護」の概念を生活体験の中で理解する以前に、「高齢者」「障がい者」そのものや、「老いの現象」や「認知機能の低下」等、自己の経験のない現象に対する理解が難しく、その結果、非経験値からもたらされる社会的な介護のネガティブなイメージのみに翻弄されてしまうのではないだろうかと考える。

3) 介護に対する印象形成における介護福祉学の役割

介護福祉学及び介護は、生きていくために大切な生活に関連する領域であること、創造性と思考性に富み、働き方や職業内容も多様であることが意外に知られていない。生活に根ざした身近な学問でもあり、職業でもある。介護や介護職についての多様な視点や魅力を知る機会が重要なのではないだろうか。感性豊かな子ども時代は、親や学校の教師や学校での学課活動（保健・道徳・総合学習・家庭科等）から受ける印象や情報の媒体であるテレビの影響も多分に感受する。又、2世代3世代家族での家庭生活経験が背景にあるならば、高齢者との実生活とともに、身近な老いという現象から計り知れない多様な価値観を形成構築していくと考えられる。現代の平和社会の基盤の背景には、激動の時代と様々な社会構造の変化を乗り切り生きてこられた人々の経験値から蓄積された歴史の足跡でもある。その高齢者の知恵や人生観の一端に触れる機会もあるであろう。

その結果として、介護職に興味と関心を抱き選択肢の一つとして選択された学生や既に就労されている介護職の中には、介護や介護職及び高齢者にポジティブなイメージを抱いている方も少なくない。それに対しては、介護職の長期就労継続とキャリアの形成構築が実現されるような継続的な

働きかけ（ポジティブなイメージと動機付けの醸成）を採求する作業は、わが国の介護福祉学が取り組むべく課題であると言えるのではないだろうか。

V. 結論及び本研究の限界

介護職の人材発掘と長期就労継続（離職防止）には、給与面や環境処遇面及び、興味関心への動機付けやソーシャルサポートの充実と言うまでもない。介護を志す学生や長期就労意欲の減退を防止し、職場環境の処遇の可視化も重要である。と同時に、対人援助職として、自身の就労を支えるための、対人援助スキルとして「相談力」、「身近な相談者（メンター）の存在」「問題解決能力」「興味、関心、探究心」「楽しめる発想の転換」等の特性要因を育むことが大切なのではないか？と考える。そのためにも、地道で慈愛に満ちた卒後現職教育やモチベーションへの働きかけ等によって、「興味関心、意欲の動機付け」も大切であると考えられる。

本調査では、介護学生と介護職が抱く「介護と介護職へのイメージ」について言及した。今後は、長期就労継続要因を明らかにするために、更に先行研究を継続し、量的調査では掘り下げられなかった対象者へのインタビューを通して、要因を明らかにしたい。

引用文献

- 介護神奈川県社会福祉協議会（2011）. 平成21年度介護業界及び介護職に対する若者のイメージ調査報告書（介護と介護就労へのイメージ）、pp3-95.
- 公益財団法人介護労働安定センター（2014）. 平成26年度介護労働実態調査（特別調査）
- 厚生労働省（2014）. 国民生活基礎調査の概況の世帯構造別、世帯類型別世帯数及び平均世帯人員の年次推移
- 厚生労働省（2015）. 2025年に向けた介護人材の確保～量と質の好循環の確率に向けて～、社会保障審議会福祉部会・福祉人材確保専門委員会. 第4回報告
- 毎日新聞（2015）. 介護士課程2割減：給与の低さ

- や過酷労働で学生敬遠 (2015年05月26日)。
宮里智恵, 高橋均, 森川敦子 (2016). 被援助の立場から考える援助行動, 小中学生における判断と道徳教育への示唆, 学習開発学研究広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座 (9), pp133-141.
高橋久美子, 貴志倫子, 奥村美代子, 林田真由美 (2011). 学校家庭クラブを活用した高校家庭科の介護実習授業: 明るく楽しむ工夫を育てる, 日本教科教育学会誌 34(2), pp51-59.
豊田義博 (2015). Works review: リクルートワークス研究所研究報告 10, pp44-53.

参考文献

- 阿部正昭 (2014). 介護職はやりがいのある職業か, 介護職におけるやりがいの構造とやりがいを奪われる経験の考察を中心に, 社会論集 20, pp1-28.
Danely Jason (2016). Learning Compassion: Everyday Ethics among Japanese Carers, The Future of Life, 京都大学大学院人間・環境学研究科 共生人間学専攻 カール・ベッカー研究室, p1, pp170-192.
新納美美, 錦戸典子 (2006). ポジティブな心情を引き出す職員間コミュニケーションの要素とそのメンタルヘルスプロモーション上の意義, 日本地域看護学会誌 8(2), pp5-13.
佐藤英晶 (2015). 介護福祉士の就業状況と就業意識: 卒業生アンケート調査からの分析, 帯広大谷短期大学紀要 (52), pp71-79.
白井はる奈, 林悠子 (2015). 対人援助者に求められる援助観: 乳児保育における熟練保育士の語りの分析を通して, 社会福祉学部論集 11, pp11-30.
鈴木佳苗 (2008). 地域における体験学習・体験活動の効果に関する研究, 日本教育工学会論日本教育工学会論文誌 31(Suppl.), pp209-212.
立花直樹, 九十九綾子, 中島裕, 多田裕二, 永井文乃 (2014). 介護職員の就労継続に関する意識調査の研究: 大阪市内の特別養護老人ホームに対するアンケート調査報告, 新潟医療福祉学会誌 13(2), pp31-37.
八巻貴穂 (2016). 介護福祉専門職の仕事のやりがい感に影響を及ぼす要因: 施設介護員と訪問介護員の比較による検討, 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要 7, pp223-233.
(2016.9.27 受稿, 2016.11.15 受理)